

ふれあい・ユンタウト

円山動物園ボランティア会
代表世話役 上田 得一

動物と出会い、人と触れ合って心のときめきをコーディネートするために

ニュースレター

<年頭ご挨拶>

ボランティア会代表世話役 上田得一

みなさま、あけましておめでとうございます。平成22年の新春を健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。円山動物園ボランティア会も昨年7期生を迎えて、総勢100名余となりました。

12年前、寅の年に当会は発足しました。当初はこども動物園班・さる山班・熱帯動物館班・類人猿館班の4班に分かれ、「いつでも、どこでもガイド出来ます」とお客様に胸を張って言えるように活動を始めました。そのための試みが過去いろいろと行われ、現在の世界のクマ班・は虫類班が加わった6班体制等もその一つの試みでした。しかし、人数を増やしても、班を増やしても、ボランティアの活動していない空白の日は残りました。

今年は、4月から飼育員さんの現行班体制にあわせた「ふれあい班」・「だんぼう班」・「ほっぼう班」・「やせい班」の4班体制になります。今まで担当していなかった新しい動物が自分の受け持ちになります。それらについて研修するのは当然ですが、今まで担当していた動物についても新たな研修が必要になってきます。力を合わせて充実した1年にしたいものです。どうぞよろしく願いいたします。



円山動物園園長 酒井裕司

ボランティア会の皆様、明けましておめでとうございます。私は昨年4月に園長に着任いたしました。以来、早いもので9ヶ月があつという間に経過いたしました。

昨年の円山動物園は、ホッキョクグマのツインズの公開に始まり、ユキヒョウのツインズや、オランウータンの『レンボー』、キリンの『ナナコ』など新しい動物たちの誕生や到着で、たくさんのお客様の笑顔と歓声に包まれた1年であったと思います。一方では、大学や高校などの教育機関や、市民団体、NPOなどが動物園を活動の場として活用する動きも非常に活発になり、昨年1年間で動物園をフィールドとして行われた各種団体が主催するイベントの数は100を超える程となっております。その中で、市民参加活動の中心となつていただいているのがボランティア会の皆様です。昨年7月からは、第7期生の新たな御仲間も加わり、さらに充実した体制が整いました。

今年も、飼育展示課スタッフなどとの連携をより深め、ドキドキ体験メニューなどへのより一層のご協力をいただくなど、『私の動物園』『おもてなし日本一の動物園作り』を目指して共に邁進していこうではありませんか。

本年もまた何卒宜しく願いいたします。



<今年もハロウィン>



恒例のハロウィン祭りが10月11日に開催されました。園内にはボランティアが制作した「マルヤマン」をはじめ「魔女」等の案山子と、園内で育てられ、様々な彫刻や顔をもったカボチャのランタンが随所に展示され来園者を楽しませました。みぞれ混じりの生憎の天気でしたが、プラザには沢山のお客様が集まり、フェイスペイントや重量当てクイズに挑戦しました。水戸黄門や怪物に扮したメンバーに対しても、子供達は負けまいと寒さを吹き飛ばすような弾ける笑顔で応え、大変盛り上がりました。(類人猿班 塚田宏司)

<木の実でかわいい巣作り>

10月18日、恒例の『木の実でかわいい巣作り』を実施しました。当日は雨模様の天気にもかかわらず30名もの大勢のボランティアの皆さんにお手伝い頂き有り難うございました。今回は会場を第一レストハウスにしましたので、その場所を来園のお客様に分かっていただくのに苦労しました。その為か、参加された人数は例年ほどではありませんでしたが、子供も大人も工作に夢中になっている姿は微笑ましい限りでした。一方、反省点として「工作指導の人員は午前・午後と平均する様にあらかじめ班に分けておく必要があった」



「工作にデコレーションが多いと時間がかかり結果として場所を一人占めしてしまう」「木の葉など余分なものを付けると日が経つにつれ、かえって汚くなる」等々が挙げられ来年に活かしたいと思います。(は虫類班 足立龍信)

＜キリン『ユウマ』のお嫁さん命名式＞

10月24日、熱帯動物館でマサイキリンの命名式が盛大に行われました。当日はマスコミ各社や関係者と約200名の来園者が見守るなか、酒井園長より2008年11月亡くなった『タカヨ』の後を継いで『ユウマ』とのペアリングの為、熊本動物園から嫁入りした経緯など説明があり『ナナコ』と命名されました。愛称は、輸送費とその後の『ナナコ』を育む末永いご支援をお約束頂いた『セブンイレブン様』に感謝を込めて、同社発行の電子マネー「nanaco」のキャラクター「キリンのナナコ」にちなんだものです。『ナナコ』は熊本生まれの5歳、『タカヨ』の孫娘にあたり、見てのとおり美人でチャーミング。御主人となる『ユウマ』とは既に舎内で同居、相性も良いようで2世が期待出来そうです。お別れ会までやって気持ち良く送り出して頂いた熊本動物園に感謝！感謝！です。



(は虫類班 紺野仁一)



＜ゴリラの『ゴン』の追悼式＞

繁殖のため京都市動物園に出向いていて1日に亡くなったゴリラの『ゴン』(推定38歳)の追悼式が円山動物園で11月22日行われました。式典は、スライドで『ゴン』の一生を振り返った後、好物のバナナやブドウが並んだ献花台に大勢の市民や関係者が花をささげて冥福を祈りました。(合掌)

(こども動物園班 小熊 瞳)

【円山のスター・ゴリラの『ゴン』が亡くなり寂しいです】

余りにも人に似ていてジッと見ていると、向こうもこちらを観察している様で、その魅力に引きつけられた『ゴン』。ボランティアを始め、飼育担当者に裏話を聞く度に益々その人柄(?)に惚れ込みました。そして、もっともっと幸せになって欲しいと願っていました。30年間も暮らした円山動物園を離れ京都市動物園での5年間。ゴリラの仲間と暮らし、オスとして認められ、会いに行く度に自信に満ちていった『ゴン』は幸せだったと思います。『ゴン』に出会えた私達も又とても幸せでした。『ゴン』ちゃん本当にありがとう。どうぞ、ゆっくり休んで下さいね。

(類人猿班 カフマン弘美)



＜オオカミの巣穴拝見！＞

昨秋のWOLF FESTIVAL 『狼祭』2009は、素晴らしい企画でしたね。その際、アニマルファミリー・キナコ感謝イベントで、オオカミの巣穴に潜入する機会がありました。何と、『キナコ』は、いつのまにか放飼場の土中に出産用の巣穴を準備していたのです。穴の入口は約50cm四方、奥行き2～3m。通路は細長いのですが、奥は丸い部屋になっていて、人間が穴の中に入って、奥でクルッと方向転換して出てこられる位の大きさなのです。オオカミのメスは子育て用に、このような巣穴を複数掘って子供を口にくわえて移動すると言われていたのですが、実際に巣穴に接した体験は貴重で新鮮な驚きでした。今年は、『キナコ』のかわいい赤ちゃん誕生を期待しています。

(世界のクマ班 小松久恭)



＜ホッキョクグマ『ララ』15歳の誕生日会＞

11月15日、アニマルファミリーの『ララ』お誕生日会が行われ、大勢のファミリーが沢山のプレゼントを持って集まりました。酒井園長の挨拶に続いてキーパーの河西さんから『ララ』はH8年に入園、最初の出産は失敗したがH15年に『ツヨシ』を出産。H17年に『ピリカ』、そしてH20年には『イコロ』と『キロール』の双子を産んだ。双子の授乳は現在もして上手に育てている。『ララ』は子育ての大ベテランです。」とのお話があり、本当に素晴らしいホッキョクグマだと改めて感心しました。又、一番の好物は牛肉(特別の日だけ)とブドウです。最後にバックヤードで数人に分かれて見学。河西さんがサンマを与えると美味しそうに食べる『ララ』の可愛い姿を、すぐ目の前で見せていただき大満足でした。



(こども動物園班 手代木敏子)



＜関西の動物園(4ヶ所)訪問記＞

11月初旬、は虫類班有志で関西方面の動物園4ヶ所を訪問して来ました。神戸の王子動物園、今年8月生まれのカバの赤ちゃん、ホッキョクグマのガラスプールは旭山動物園と同じ作り、2頭のパンダも飼育されています。姫路城がどこからでも見える姫路動物園、初めて見るツチブタ、主食はアリで、耳が兎、鼻は豚、体はミニブタに似て愛嬌のある姿ですが、とっても臭かったです。京都動物園ではゴンちゃんに会えるのを楽しみにしていたのですが残念！花と果物を供えて冥福を祈りました。ゴリラの隣にチンパンジーの学習室があり学習する様子に時間も忘れしました。ブラジルバクの赤ちゃん、ウリボウにも会えました。大阪の天王寺動物園は通天閣から5分、美術館もある広大な緑の公園の中にあります。ライオンの近くはキリン、シマウマが住むサバンナが広がり、ハイエナの毛並みの美しさと大きさにビックリ、カバと魚が泳ぐ透明なプール、キーウィが夜行性なのも知りました。どの動物園でも展示方法に工夫を凝らしていてとても新鮮に感じました。(は虫類班 中島香代子)

※田村さんってどんな人？

昭和42年5月28日札幌篠路、家業は農家に生まれた田村少年。身近に動物がいる生活環境にあり、よく動物の本やテレビを見ていた。小学生の頃にはもう、将来は動物園の飼育員になろうと決めていた。



※願望成就

昭和61～62年円山動物園以外で臨時の飼育員として働き、平成元年円山動物園で臨職半年の後平成2年7月～現在に至っている。担当動物と期間は、ダチョウ3カ月、クマ7年、モンキー9年、キリン3年6カ月。

※担当動物の思い出

◎エゾヒグマ『熊子』 41歳まで生き、貢献大だったのだが、目が悪くなり、バックヤードで5年間飼育した。人間の介護と同じであり、悩ましいことではあるが、やはり健康で長生きが良いと思った。

◎モンキー オマキザルの150gという小さい子の人工保育を行い非常に気を遣った。ドグエラヒヒ10数頭いたがオスの世代交代に遭遇。年老いたオスは頑張るが、若い者に負ける。ケガをしてバックヤードで飼っていたが、一週間位で亡くなった。

◎キリン『シゲジロウ』 和歌山への移送時、箱に入れる訓練をした。なかなか箱に入りたがらず、業者が来て、一発勝負なので緊張したことを覚えている。

◎アジアゾウ『花子』代番・ローランドゴリラ『ゴン』代番 「円山にこういうゾウやゴリラがいた。」ということを知ってもらいたいと思っている。「今はいないが昔はこうだったよ。」とお客様が円山に来て思い出したり、親子の会話になったり、おじいさん、おばあさんがお孫さんを連れ「ここにゾウがいてネー」という話が出る様にしたいと思っている。進むのもよいが思い出があっても良いと思っている。

※飼育員として一番嬉しいこと

見知らぬお客様同士が、楽しそうに同じ時間を共有している。親子がニコニコと会話をしている。何やら子供がぐずり、なだめている親がいる。家族、友人、老人、若人も皆動物園に来ている人は楽しそうにしている。そんな光景を見ることが一番嬉しい。最初はただ、動物が好きだった。現在はお客様に楽しんでもらいたいと思うようになった。会話ではなく違う表現方法もあると思えばその方法を生かしている。

※気になること

キリンの『ユウマ』君のお嫁さん『ナナコ』は、5才で妊娠可能な年齢なのだが、雪の上での生活は全て初めての経験のため、歩行も心配。だが飼育係として見守りたいと思っている。『ナナコ』は昨年11月に死亡した雌のタカヨの孫であり『ユウマ』とは夫婦仲もよく初めての冬も元気に乗り切ってくれると思う。(ちなみに妊娠期間は450～460日とのこと)

※これから

金沢前園長の方針が「めいめいがガイドをしよう」ということであり、自分としては今までの経験した事を生かしてお客様の反応を見ながら、説明看板を活用していきたいと思っている。以前に居た動物達の説明看板をジッと見て読んでくれている人。数人で語り合いながら見てくれている人。記念写真を撮る人。楽しそうであり、会話ばかりではなく説明看板でも十分にこちら側からの発信を受け取ってもらえているのだと思う。動物園の楽しみ方はいろいろあっていいと思う。自分が必要とされている間は貢献したい、そして頑張りたい。

田村さんとお話を終えた後、少年時代の夢をかなえた後もその情熱は変わらず次々とアイデアを出してお客様を引きつけていくのだと確信しました。語る口調はシャイで物静かですが強い信念がこちらにも伝わってきました。ファンになりました。動物のため動物園へ楽しみにやってくる全ての人のために、これからも益々のご活躍を願っております。多忙中での貴重な時間を頂きありがとうございました。(熱帯動物班 水戸久仁子)



＜サル山も紅葉の季節＞

園内の木々の紅葉が始まる頃、サル山が一変、恋の季節の到来。他の霊長類と比べるとニホンザルは顔とお尻の赤いのが特徴ですが性ホルモンの関係で特に秋から冬にかけて一段と赤くなり、普段見慣れているサルの顔さえよく見ないと分らなくなる位変貌します。体の大きいオス達は肩からお尻にかけて一段とたくましくなり、恐ろしい位の気迫が伝わってきます。雄同士の喧嘩もさることながら、初めて性成熟が始まった子ザル達には自分達の身体に起きている事がよく分らずに、周りに当り散らして暴れまくっています。被害者は身体の弱い者とお婆ちゃんザル達で何時もながら可哀想だと思ってしまう。相手を選ぶ権利は雌ザルにあるので、必死でご機嫌伺いをし、追いかけてまわっています。食べる事と子孫を残すことが生きている証！サル山でも可愛い赤ちゃんを見てみたいです。(サル山班 田中一江)

＜ホッキョクグマ・ツインズ誕生会＞

『イコロ・キコロ』の満1歳の誕生会が12月5日行われました。開園と同時に続々とお客様が「世界の熊館」を訪れ3重4重の人垣。プールには大きな氷柱が20本も投げ入れられ北氷洋の雰囲気。氷の下にはサケや牛肉が沈められ赤いリングがブカブカ浮いていて誕生会らしい演出です。酒井園長の挨拶の後、全員声を揃えて「誕生日おめでとう！」そして扉が開くと、『ララ』を先頭にツインズのお出まし。しかしいつもと違うプールの様子に少し慎重。『ララ』が沈んでいる肉や魚に気付き顔を突っ込んでサケを引き上げると、早速『イコロ』が駆け寄り、貰って独り占め。そのうち『キコロ』も『ララ』から牛肉を貰ってムシャムシャ。この日の『ララ』は我が子の誕生会と判っているのか横取りされても怒りませんでした。2頭とも身長は160cmを超える程大きくなりました。「このまま元気よく育って海外に羽ばたくのだよ。」と願わずにいられませんでした。（世界のクマ班 山川泰弘）



＜アニマルファミリー『ココ感謝イベント』＞

12月6日、ファミリー感謝イベントが開かれました。午前の大人の飼育体験には抽選で6名が参加。『セイタ・ココ』の部屋の掃除、好物の笹を刺すための竹筒を青竹に交換、外の遊び場に木登り用の大きな木を新たに設置、慣れない作業に戸惑いながらも黙々と頑張る6人。2頭は気に入ってくれるのでしょうか？午後は『ココ』出産時の映像を川野飼育員のトークを交えながら鑑賞。映像は切なくもあり、『ココ』の健気さに目頭が熱くなる思いでした。頑張ったんだね『ココ』ちゃん。今度はきっと大丈夫だよ。この後レッサーパンダの所へ戻り、美味しそうにリンゴを食べる2頭をいつまでも見ていました。登り木は気に入ってくれたようでしたよ。川野さんのお人柄もあって『ココ』と『セイタ』を愛する女性ファンの力強いパワーを感じた初冬の日でした。（こども動物園班 松山幸子）

＜エゾフクロウ＞

いつも見るたび3羽でちんまり止まり木に止まっている。たまに1羽だけ手前にいる時はお客様も気づいて、ちょっと注目されるけど、お隣にハリーポッターで一躍有名になったシロフクロウの夫婦がいる為によくそちらに目を向けられる。あんなにムクムクと可愛い姿なのにどうにも影が薄い。いつも通り過ぎる人たちをニコニコ仏顔で黙って見ている。そんな彼らだけ動物園の始まりと終わりは束の間の野性を見せ、パタパタ飛んだりしている。それでもそんな時間はあっという間に終わり、いつもの無表情に戻る。一度でいいから真夜中の彼らの暮らしぶりを覗かせてもらいたいな…。



（こども動物園班 高橋しのぶ）

＝投函 コーナー＝



- * カンガルーの赤ちゃん、見えた♪ * …ママのおなかにはあったかいフクロでちゅ。（こども動物園班 大場めぐみ）
- * 食用キノコを見いつけ！ * 円山動物園は自然が一杯。園内のニレの木に立派で美味しそうな「たもぎ茸」を見つけました。（世界のクマ班 山川泰弘）
- * いい夫婦の日？ * マンドリル夫婦は、結婚して半年が経過。旦那さんのチャールズはH2年生まれの19歳。そろそろ子供が欲しいのに、最近はお疲れ気味。大丈夫かしら？心配な今日この頃です。（類人猿班 伊藤 剛）
- * チャレンジャーは誰？ * は虫類館展示コーナー（ボランティア作成）の展示物が一新しました。目で見て、手で触れてヘビの種類を答えてみてください。なかなか難しいですよ！（は虫類班 藤田叶子）
- * 再デビュー * 猛禽類のフリーフライトと鷹匠体験が再開。トビの『デューク』雨の為ステージ上でのフリーフライト。この日の午前京都に出張中のゴンが亡くなりました。キーパー吉田さんの胸のうちは…。（サル山班 田中一江）

編集後記

あけましておめでとうございます。お蔭様でニュースレターは昨年も多くのご投稿を頂き予定通り発行出来ました。厚くお礼を申し上げます。しかし、折角の記事を頂きながら、紙面の都合で掲載出来ないものや文章を削減したもの等があり、ご本人には大変申し訳ない事なので改めてお詫びをしたいと思います。今年もどうぞよろしくお願い致します。（次号は4/10が原稿締め切りです）

編集スタッフ：山川泰弘 西川明子 松山幸子 小熊 瞳 田中一江 星原恵子 藤田叶子 紺野仁一 水戸久仁子
大地 淳 田中茂雄 伊藤 剛
編集責任者：丹野健治 (TEL/FAX 011-232-8151) 佐藤正俊